

令和7年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第6号（9月）

令和7年8月27日
山形県病虫害防除所

[概要]

園芸作物：おうとうの褐色せん孔病、果樹共通害虫の果樹カメムシ類の発生量は多く、りんごの褐斑病、モモハモグリガ、ナシヒメシンクイの発生量はやや多い予想です。圃場をよく見回り防除を徹底してください。

秋冬ねぎのシロイチモジヨトウは多く、秋冬ねぎのネギアザミウマ及び畑作物・園芸作物共通害虫のオオタバコガの発生量はやや多い予想です。圃場をよく見回り早期発見に努め、発生初期に防除を徹底してください。

※ 次回の発表は9月24日の予定です。

予報内容一覧

作物名	病虫害名	発生量
だいず	マメシンクイガ	—
りんご	斑点落葉病 黒星病 褐斑病	— — 平年並 やや多い
ぶどう	輪紋病・炭そ病	—
もも	べと病・褐斑病	—
西洋なし	せん孔細菌病	平年並*
日本なし	モモハモグリガ	やや多い
おうとう	輪紋病	—
果樹共通害虫	黒星病	—
	褐色せん孔病	多い
	果樹カメムシ類（り・ぶ・も・な・か）	多い
	ナシヒメシンクイ（り・も・な）	やや多い
	モモシンクイガ（り・も・な）	—
夏秋きゅうり	炭そ病・褐斑病・べと病・斑点細菌病	—
	カメムシ類	—
秋冬ねぎ	葉枯病	平年並
	さび病	—
	ネギアザミウマ	やや多い
	ネギハモグリバエ	平年並
	シロイチモジヨトウ	多い
畑作物・園芸作物共通害虫	オオタバコガ（豆・夏・ね・え・き）	やや多い
	ハスモンヨトウ（豆・夏・ね・え・き）	—

()内 豆：だいず、り：りんご、ぶ：ぶどう、も：もも、な：なし（西洋なし、日本なし）、か：かき、夏：夏秋きゅうり、ね：秋冬ねぎ、え：えだまめ、き：きく

* 感染量

山形県病虫害防除所	本所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
	庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病虫害防除所トップページ		https://agr.in.jp/theme/byogai_chubo_josho/index.html	
農作物有害動植物発生予察情報		https://agr.in.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html	

1. 合成ピレスロイド剤等を使用する場合は、市町村農作物有害動植物防除協議会等で定めた地区に限って使用し、蚕・魚類に対する被害を防止する。
2. 耐性菌・抵抗性害虫の出現を防止するため、薬剤の選択及び使用回数に留意する。
3. **品種ごとの収穫時期を考慮し、使用時期（収穫前使用日数等）を厳守する。**
4. **農薬の使用に当たっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。**
5. 農薬の空容器や空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行う。

予報根拠中の記号 (+)：発生量を多くする要因 (-)：発生量を少なくする要因

I 普通作物

1. だいた

(1) マメシクイガ

フェロモントラップでの初誘殺は県予察圃場（山形市）で8月4半旬（平年：8月4半旬）と平年並であった。地区予察圃場（酒田市）では未誘殺であった（平年初誘殺：8月4半旬）。薬剤散布は8月下旬及び9月上旬（前回散布の10日後）の2回が基本であり、9月上旬にも必ず実施する。十分な防除効果を得るために、莢まで薬剤が付着するようていねいに散布する。

II 園芸作物

1. りんご

(1) 斑点落葉病

8月26日現在の発生量は平年並であるが、発生の多い園では、9月上旬～中旬に有機銅を含む薬剤を散布する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) 黒星病	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月26日現在の発生量はやや少ない。（-）
- イ. 向こう1か月の降水量は多いと予報されている。（+）

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 葉摘み時に発病葉や発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。
- イ. 降雨が続くと発生が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。
- ウ. 薬剤散布に当たっては、不要な徒長枝はせん除し、樹冠内部への薬液到達性を高めるとともに、十分な薬液量（500ℓ以上/10a）でていねいに散布する。また、スピードスプレーヤにより防除する場合は、走行速度や散布経路に注意し、散布ムラを防ぐ。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(3) 褐斑病	やや多い

1) 予報の根拠

- ア. 8月26日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 降雨が続くと発生が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。
- イ. 不要な徒長枝はせん除し、樹冠内部への薬液到達性を高めるとともに、散布ムラが生じないようにいねいに薬剤散布を行う。

(4) 輪紋病・炭そ病

炭そ病の発病果の初確認は8月5日(平年:8月24日)と早い。発病果は二次伝染源となるので見つけ次第摘み取り適切に処分する。また、例年発生が見られる園では、9月上旬～中旬に薬剤散布を行う。

輪紋病及び炭そ病は、降雨が続くと果実への感染が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。

2. ぶどう

(1) ベと病・褐斑病

8月26日現在の発生量はベと病が平年並、褐斑病はやや少ない。デラウェアで発生が多い園では9月上・中旬にも防除を行う。大粒種では収穫後遅れないよう薬剤散布を行う。薬剤散布に当たっては、棚面の上下から十分量を散布する。

3. もも

病 害 虫 名	予 報 内 容
	感 染 量
(1) せん孔細菌病	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月26日現在の発生量はやや少ない。(－)
- イ. 向こう1か月の降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 次年度の伝染源密度の低減を図るため、収穫後できるだけ早く(9月上旬～)無機銅剤を2週間おきに2～3回散布する。
- イ. 台風等により早期に落葉すると、落葉部位からの感染が多くなるため、台風の通過前や降雨前に薬剤防除を徹底する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) モモハモグリガ (第5世代)	やや多い

1) 予報の根拠

ア. 8月26日現在、一部で発生が多い園が見られ、発生量はやや多い。(+)

イ. 向こう1か月の気温は高いと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 早期落葉を防ぐため、園内をよく見回り、被害葉で幼虫や蛹が見られる園では、直ちに薬剤散布を行う。

イ. 薬剤の選定の際は「山形県病虫害防除基準」を参照し、モモハモグリガに効果の高い薬剤で防除を実施する。

4. 西洋なし

(1) 輪紋病

8月26日現在、発病果は確認されていない。本病は9月も感染するので、9月上旬及び中・下旬にも防除を行う。

5. 日本なし

(1) 黒星病

8月26日現在の発生量は平年並であるが、広く発病果が確認されているため、園内の見回りを徹底し、発病果、発病葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

6. おうとう

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 褐色せん孔病	多い

<7月10日付け 注意報第3号発表>

1) 予報の根拠

ア. 8月26日現在の発生量はやや多い。(+)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 発生が多い園では、落葉を集めて適切に処分する。

イ. 9月も感染するので、徒長枝や樹冠上部の葉まで薬液が付着するよう十分な散布量でいねいに散布する。

ウ. 薬剤の選定に当たっては翌年の収穫までの総使用回数を考慮して使用する。

7. 果樹共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) 果樹カメムシ類 (カギカメムシ・チャバカメムシ)	りんご・ぶどう・もも ・なし・かき	多い

< 7月25日付け 注意報第4号発表 >

1) 予報の根拠

- ア. 8月後半の巡回調査の結果、被害果の確認地点率は日本なし及びかきが高く、西洋なしがやや高い。特に、日本なし及びかきでは被害果率が高い。(＋)
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 気温や湿度の高い日に果樹カメムシ類の園内への飛来や吸汁加害が多くなる傾向があるため、園内をよく見回り、樹上の寄生や被害果の発生に注意する。
- イ. 園内で成幼虫の寄生や被害果が確認される場合は、速やかに捕殺や薬剤散布を行う。また、加害は収穫期まで長期にわたるので、園内の見回りを継続する。
- ウ. 台風の通過後に、園内に多飛来する場合がありますので注意する。
- エ. 薬剤の選定に当たっては「山形県病虫害防除基準」を参照し、果樹カメムシ類に効果の高い剤で防除を実施する。なお、各樹種の品種ごとの収穫開始時期を考慮し、収穫前使用日数を厳守する。また、薬剤抵抗性出現を防止するため、同一系統の薬剤の連用を避ける。

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(2) ナシヒメシンクイ	りんご・もも・なし	やや多い

1) 予報の根拠

- ア. 8月26日現在の発生量は平年並である。
- イ. 8月の巡回調査の結果、もも及び西洋なしで被害果が確認されている。(+)
 - ウ. 向こう1か月の気温は高いと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. もも、西洋なしは特に被害を受けやすいので、園内をよく見回り、被害果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。
- イ. 被害が見られる園では、9月上旬の薬剤防除を徹底する。 薬剤の選定に当たっては「山形県病害虫防除基準」を参照し、ナシヒメシンクイに効果の高い剤で防除を実施する。なお、各樹種の品種ごとの収穫開始時期を考慮し、収穫前使用日数を厳守する。また、薬剤抵抗性出現を防止するため同一系統の薬剤の連用を避ける。
- ウ. 本種の活動時間帯（18～22時頃）の気温が15℃以上の日が続くような場合には、必ず9月中・下旬にも防除を行う。
- エ. 薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するようていねいに散布する。

(3) モモシンクイガ（りんご・もも・なし）

8月26日現在の発生量はやや少ない。園内をよく見回り、被害果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。また、薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するようていねいに散布する。

8. 夏秋きゅうり

(1) 炭そ病・褐斑病・べと病・斑点細菌病

8月26日現在、炭そ病及びべと病の発生量はやや少ないが、降雨が続くと発生が多くなるため、以下の対策を実施する。

- ア. 発病葉は見つけ次第取り除き、圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- イ. 薬剤散布は予防防除を基本とし、葉裏まで薬液を付着させるため、十分な薬液量でていねいに行う。
- ウ. 降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行う。
- エ. 草勢が低下することで発生が多くなるため、適切な肥培管理を行い草勢維持に努める。

(2) カメムシ類 (クサギカメムシ・チャバネアオカメムシ等)

カメムシ類 (主にクサギカメムシ) が果実を加害することで、くぼみや奇形の症状が発生するため、圃場で成幼虫の寄生や被害果が確認される場合は、速やかに捕殺や薬剤散布を行う。

9. 秋冬ねぎ

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 葉枯病	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月26日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行い、散布予定日に降雨が予想される場合は前倒しして散布を行う。
- イ. 本病害は、新葉に発生する黄色斑紋病斑の原因となるため、薬剤散布を行う際は、薬液が新葉まで十分に付着するよう、生育に応じた十分な薬液量でていねいに行う。
- ウ. 黄色斑紋病斑は、特に一部の品種 (夏扇パワー等) で発生しやすいため注意する。また、収穫が遅れると発生しやすくなるため、適期収穫に努める。

(2) さび病

8月26日現在、発生は確認されていないが、降雨が続くと発生が多くなるため、以下の対策を実施する。

- ア. 肥切れで発病が多くなるので、止め土前に追肥を行い、肥切れを防ぐ。
- イ. 潜伏期間が長いため、発生前から防除を行う。
- ウ. 降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行い、散布予定日に降雨が予想される場合は前倒して散布を行う。
- エ. 一部の品種 (関羽一本太等) では発生しやすいため注意する。
- オ. 発生が見られた場合は、圃場内で広く感染している恐れがあるため、速やかに薬剤散布を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(3) ネギアザミウマ	やや多い

1) 予報の根拠

- ア. 8月26日現在の発生量はやや多い。(＋)
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 高温乾燥が続くと急激に増殖する可能性があるため、圃場をよく見回り早期発見に努め、発生初期から薬剤散布を行う。
- イ. 既に密度が高まっている圃場では、密度が下がるまで防除間隔を短くし、継続して薬剤散布を行う。
- ウ. 株全体に十分に薬液を付着させるため、薬剤散布は十分な薬液量でていねいに行う。
- エ. 薬剤選定に当たっては、薬剤抵抗性出現を防止するため、作用性の異なる薬剤グループで輪用散布を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(4) ネギハモグリバエ	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月26日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 高温乾燥が続くと急激に増殖する可能性があるため、圃場をよく見回り早期発見に努め、発生初期から薬剤散布を行う。
- イ. 株全体に十分に薬液を付着させるため、薬剤散布は十分な薬液量でていねいに行う。
- ウ. 薬剤選定に当たっては、薬剤抵抗性出現を防止するため、作用性の異なる薬剤グループで輪用散布を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(5) シロイチモジヨトウ	多い

1) 予報の根拠

ア. フェロモントラップにおける7月1半旬から8月4半旬までの総誘殺数は、県予察圃場（寒河江市）、地区予察圃場（酒田市）ともに多く、8月2半旬以降、誘殺数が多い状況が継続している。（+）

イ. 8月後半の巡回調査の結果、幼虫による葉の食害が多く確認されており、平均被害株率はやや高い。（+）

ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 圃場をよく見回り早期発見に努め、卵塊や被害葉、幼虫は見つけ次第取り除き適切に処分する。

イ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫時に散布する。

ウ. 既に幼虫が中齢から老齢となっている圃場では、「山形県病害虫防除基準」等を参照し、特にチョウ目に効果の高い薬剤を選定する。

エ. 薬剤防除後も圃場をよく見回り、被害の拡大が見られる場合には、作用性の異なるグループの薬剤を散布する。

オ. 株全体に十分に薬液を付着させるため、薬剤散布は十分な薬液量でていねいに行う。

カ. 今後も台風や低気圧の通過に伴い多飛来することが予想されるので、通過後に圃場をよく見回るとともに、発生予察情報等により発生動向の把握に努める。

キ. 本種はねぎ以外の園芸作物も広く加害するため、早期発見・早期防除に努める。

10. 畑作物・園芸作物共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) オオタバコガ	だいず・夏秋きゅうり ・秋冬ねぎ・えだまめ ・きく	やや多い

1) 予報の根拠

- ア. フェロモントラップにおける7月1半旬から8月4半旬までの総誘殺数は、県予察圃場（山形市）で多く、地区予察圃場（酒田市）でやや多い。（+）
- イ. きくやだいず等で広く寄生や食害が確認されている。（+）
- ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 圃場をよく見回り、早期発見に努める。特に果実、花蕾、新芽等の周辺部を中心に観察する。
- イ. 被害を受けた果実、花蕾、新芽等は、内部に幼虫が生息している場合があるので適切に処分する。
- ウ. 幼虫の寄生や被害が見られる場合は、直ちに薬剤散布を行う。なお、薬液が株全体に十分付着するよう、生育に応じた十分な薬液量でていねいに行う。
- エ. 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なるグループの薬剤で輪用散布を行う。
- オ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、通過後に圃場をよく見回るとともに、発生予察情報等により発生動向の把握に努める。

(2) ハスモンヨトウ（だいず・夏秋きゅうり・秋冬ねぎ・えだまめ・きく）

8月26日現在の発生量は平年並であるが、8月前半にまとまった飛来が見られたことから、以下の対策を実施する。

- ア. 本種は広食性で、だいず、果樹、野菜、花き等多くの作物を加害するので、圃場をよく見回り、早期発見に努める。
- イ. 卵塊や、ふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は、取り除き適切に処分する。
- ウ. 幼虫の齢期が進むにつれ薬剤による防除効果が低下するため、卵塊確認時や被害発生初期に防除を行う。
- エ. 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なるグループの薬剤で輪用散布を行う。
- オ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、通過後に圃場をよく見回るとともに、発生予察情報等により発生動向の把握に努める。

[発生予察情報で使用される時期、量の表現の基準]

1. 時期

平 年 並	平年値（過去 10 か年の平均）を中心として前後 2 日以内
やや早い	平年値より 3～5 日早い
ややおそい	平年値より 3～5 日おそい
早 い	平年値より 6 日以上早い
お そ い	平年値より 6 日以上おそい

2. 量（発生量、発生面積及び被害量等）

過去 10 年間の値を、発生が多い順に下図のように並べ、本年の値との比較により求めます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
←多い→	← やや多い →		← 平 年 並 →				← やや少ない →		←少ない→

東北地方 1か月予報 (08/23～09/22)		
2025年08月21日14時30分 仙台管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	向こう1 か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。期間の前半は降水量の少ない状態が続く所があるでしょう。	
向こう1 か月 08/23～09/22	天候	東北日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率 70% です。
	日照時間	日照時間は、東北日本海側で平年並または多い確率ともに 40%、東北太平洋側で多い確率 50% です。
1 週目 08/23～08/29	気温	1 週目は、高い確率 80% です。
2 週目 08/30～09/05	気温	2 週目は、高い確率 70% です。
3～4 週目 09/06～09/19	気温	3～4 週目は、高い確率 60% です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1 か月 08/23～09/22	
		1 週目 08/23～08/29	
		2 週目 08/30～09/05	
		3～4 週目 09/06～09/19	
降水量	東北日本海側	向こう1 か月 08/23～09/22	
	東北太平洋側	向こう1 か月 08/23～09/22	
日照時間	東北日本海側	向こう1 か月 08/23～09/22	
	東北太平洋側	向こう1 か月 08/23～09/22	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)